

# フォスタリングチェンジ・プログラム 2024年度実施報告



一般社団法人 無憂樹

- フォスタリングチェンジ・プログラムと新たな方向性 … 01
- フォスタリングチェンジ・プログラムについて …………… 02
- プログラムの概要 …………… 03～04
- 2024年度実施状況の概要 …………… 05～06

### 実施報告

- フォスタリングチェンジ・プログラム in北海道…………… 07
- フォスタリングチェンジ・プログラム in岩手県…………… 08
- フォスタリングチェンジ・プログラム in茨城県…………… 09
- フォスタリングチェンジ・プログラム in栃木県…………… 10
- フォスタリングチェンジ・プログラム in東京都…………… 11
- フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川県… 12～14
- フォスタリングチェンジ・プログラム in富山県…………… 15～16
- フォスタリングチェンジ・プログラム in山梨県…………… 17
- フォスタリングチェンジ・プログラム in長野県…………… 18～19
- フォスタリングチェンジ・プログラム in静岡県…………… 20
- フォスタリングチェンジ・プログラム in京都府…………… 21～22
- フォスタリングチェンジ・プログラム in大阪府…………… 23
- フォスタリングチェンジ・プログラム in広島県…………… 24
- フォスタリングチェンジ・プログラム in山口県…………… 25
- フォスタリングチェンジ・プログラム in高知県…………… 26
- フォスタリングチェンジ・プログラム in福岡県…………… 27
- フォスタリングチェンジ・プログラム in大分県…………… 28

- ファシテーターフォローアップミーティング …………… 29
- プログラムに関する里親の評価 …………… 30～33
- 総括2024年度の実施と今後の課題 …………… 34

## フォスタリングチェンジ・プログラムと新たな方向性

| 一般社団法人 無憂樹 代表 上村 宏樹 |

フォスタリングチェンジ・プログラムは2016年に、日本で最初の養成講座が開催され、それから9年余が経ちました。FCP養成講座を受講した数も350名近くなり、着実にファシリテーターの数が増加していております。そして2024年度は、群馬県から始めてFCPファシリテーター養成講座に参加していただき、37の自治体まで広がりました。

コロナ中から減少していた実施回数も2022年度以降回復してきております。そして2024年度には、これまでで最多の34の自治体でフォスタリングチェンジ・プログラムが開催されました。成果につきましても、毎年出している年次報告書に見られますように、プログラムに関する里親の評価は非常に高く、里親参加者の出席率も軒並み高い水準となっています。これはひとえに、FCPファシリテーターの皆様のご努力と里親のみなさまの実践の結果であると思ひますし、同時にこのプログラム内容の素晴らしさだと思ひます。

毎年実施してます、プログラム終了後の調査では、16都道府県にて計21カ所の受講者123名に対してのアンケートのご協力をいただきました。アンケートの集計結果を見ても肯定的な変化が起こっております。こどもの行動の変化において、5点満点中、平均点 4.1点が（5点が大変よくなった）となっており、フォスタリングチェンジ・プログラムの効果をそして、こどもの力を引き出し、子ども変化に寄与するフォスタリングチェンジ・プログラムのすばらしさを実感します。

無憂樹は一昨年度、フォスタリングチェンジ・プログラムを長年支えてくださった日本財団からの助成が終了し、より子どもや里親、支援機関に有てきな存在となるよう新たな方向性をを模索しているところです。フォスタリングチェンジ・プログラムは委託後の養育プログラムですが、2024年度は、同じイギリスの、認定前プログラム、スキル・トゥ・フォスターのファシリテーター養成講座も実施されました。こちらの主催は、NPO法人家庭養育支援機構ですが、このような形で素晴らしいプログラムが日本に導入されていくことは大変喜ばしいことだと思ひます。同時に、この海外から導入されたプログラムを日本の文化や風土に合ったものにしていくことはとても大事なことですし、また海外のプログラムを導入するだけではなく、いつかは日本で素晴らしいプログラムが開発され広がっていくことも目指したいですし、無憂樹でも今後の方向として、様々な有益な研修の実施や、ゆくゆくはプログラム開発までできればと思ひています。

最後になりましたが、改めて4年間、そして後の後も何かと無憂樹、フォスタリングチェンジ・プログラム事務局に多大なご支援をしていただいた日本財団に感謝申し上げますとともに、いつもあたたかく支えてくださる松崎先生、上鹿渡先生、そしてトレーナーの皆様、並びに全国のファシリテーターの皆様、里親の皆様、子どもたちに感謝を申し上げて、第9回目の報告書をお届けさせていただきます。



## フォスタリングチェンジ・プログラムについて

| 早稲田大学教授・児童精神科医 上鹿渡 和弘 |

2024年度には都道府県社会的養育推進計画が各地で策定され、子どもの権利を土台にしながらパーマネンシー保障と家庭養育優先原則を実現する2025年から2029年までの5年間の計画が始まりました。2020年度から前半5年間の計画に比べて、今回は国が目指す里親等委託率を目標として設定する自治体が増えました。これまで以上に里親養育の質の担保に向けた取り組みが求められる状況となっています。「子どものため」の支援が、子どもにとって最善の成果をもたらすことができるよう、里親が「子どもとともに」いられるよう、支援機関の役割の充実と、里親の養育スキル向上がますます必要とされています。

このような中2024年度も、日本全国でフォスタリングチェンジ・プログラムが実施されました。プログラムで習得していただく多くのスキルの中でも最も重要な「アテンディング」では、子どもと養育者が「いっしょにいること」を日々の生活の中で確実に実施します。アテンディングは、子どもにとって大事な時間となり、子どもと養育者の間に「ともにいる」大切な関係が構築されます。里親養育の中でも最も重要な安定したアタッチメントに大変効果的な方法です。

2023年12月に閣議決定された「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン」では「アタッチメントの形成と豊かな遊びと体験」、「安心と挑戦の循環」が不可欠なことが示されています。アテンディングは、まさに子どもにとって重要な「安心と遊び」を確実に実現する方法です。フォスタリングチェンジ・プログラムにはアテンディングの他にも、里親が「子どもとともに」いられるよう、具体的な方法がいくつも示されています。

フォスタリングチェンジ・プログラムは多くのスキルについて学びますが、スキルを身につける前に、子どもとの関係改善を、さらにそのために必要な子ども視点での理解を大事にしています。このようなプログラムの実施を通して里親養育支援に携わる方々と養育者の努力が、子どもにとっての様々な良い変化につながることを願っております。

関係の皆様の日々のご尽力に心より感謝申し上げます。これからも皆さんの取り組みに期待しております。



## フォスタリングチェンジ・プログラムの概要

フォスタリングチェンジ・プログラムは、アタッチメント理論、社会的学習理論、認知行動理論に基き、ペアレントトレーニングの考えも取り入れて1999年にロンドンのモーズレイ病院の専門家チームによって開発されたものです。その後、現場での実践と評価を経て2011年に改訂版のマニュアルが出版され、これに基づいた無作為化比較試験（RCT）が2012年に実施されました。社会的養護下にある子どものかかえる問題、特に様々な虐待の影響に配慮した子どもの理解とそれに基づく対応について、子どもの長所に焦点をあて、育み、認証し、実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラムです。効果的な褒め方やアテンディング、限界設定やタイムアウトなどについて学びながら実践し、里親自身が自分で考え対応できるようになることを目指すプログラムとなっています。

プログラムの実施構成は、以下の通りである。

- 通常版  
週1回3時間、里親グループでのセッションを12回（約3か月）継続。  
対象者は、実際に2歳から12歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 思春期版  
週1回3時間30分、里親グループでのセッションを12回（約3か月）継続。  
対象者は、12歳以上から18歳未満の里子を養育している里親12名まで。
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気の中で実施される。

プログラム内容は、以下のフラワーパワーに示されているような4つ要素からなっている。

### ■ 通常版

養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となり、中核に「肯定的な注目」がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。

- ① 関係を強化する～褒める、アテンディング（肯定的注目）、代替行動の選択、有形の報酬、ご褒美表、遊び
- ② 教育～子どもの学習の支援、宿題戦略、子どもの読書を助ける、学校との連携
- ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、考えと感情のラベリングと管理、アイ（私は）メッセージ、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
- ④ ポジティブ・ディシプリン（肯定的しつけ）～明確で冷静な指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、タイムアウト

### ■ 思春期版

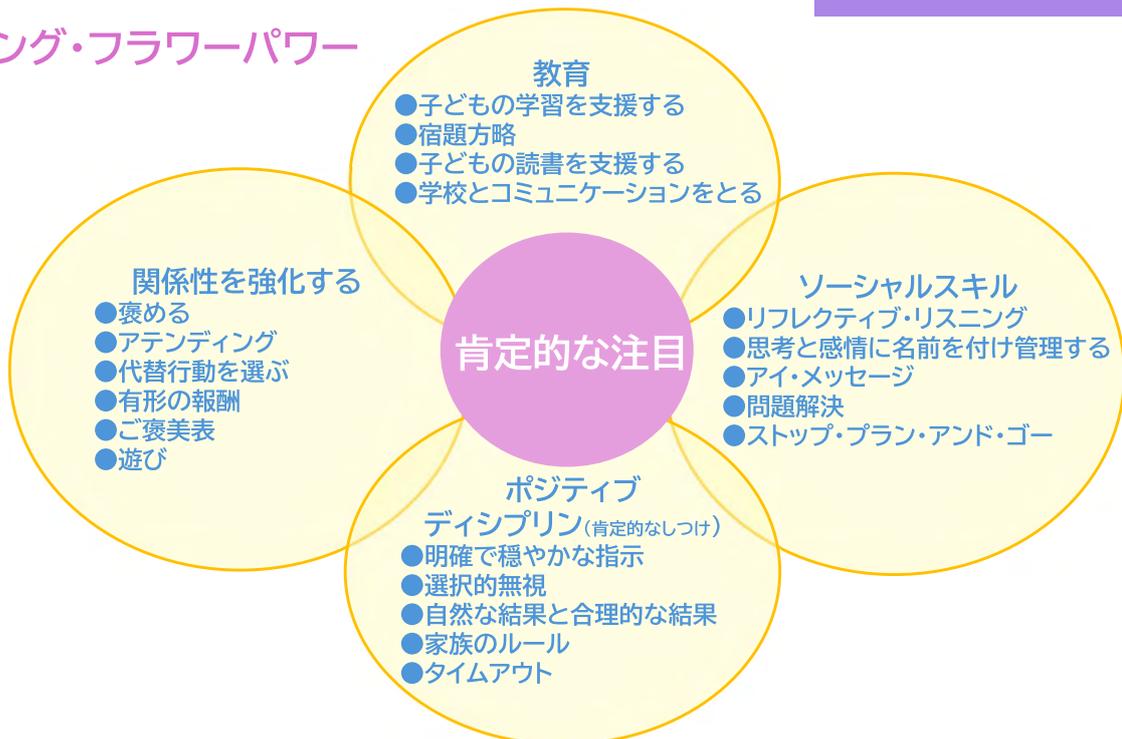
養育に最も必要な要素として「温もり」と「観察」が基本となり、中核に「ポジティブな世話/注目」とともに、思春期特性への理解としてアタッチメントとレジリエンス（回復力）がある。以下の①から④の順番でセッションが実施される。

- ① 関係性を強化する～褒める、1対1の時間、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ポイント・チャート
- ② 教育～子どもの学習支援、読書、宿題や勉強を行うことを激励する、学校とコミュニケーション、アイ・メッセージ
- ③ ソーシャルスキル～リフレクティブ・リスニング、思考と感情に名前を付け管理する、問題解決、ストップ・プラン・アンド・ゴー
- ④ ポジティブ・ディシプリン（肯定的しつけ）～明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のルール、外出禁止、家事、検査は禁止

さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

最初にファシリテーターとなる担当者が里親宅を個別に訪問し既定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、個別訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に一人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習・実践を施行するが、他きょうだいにも並行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントなどについて、事前事後の評価を行うことができる。

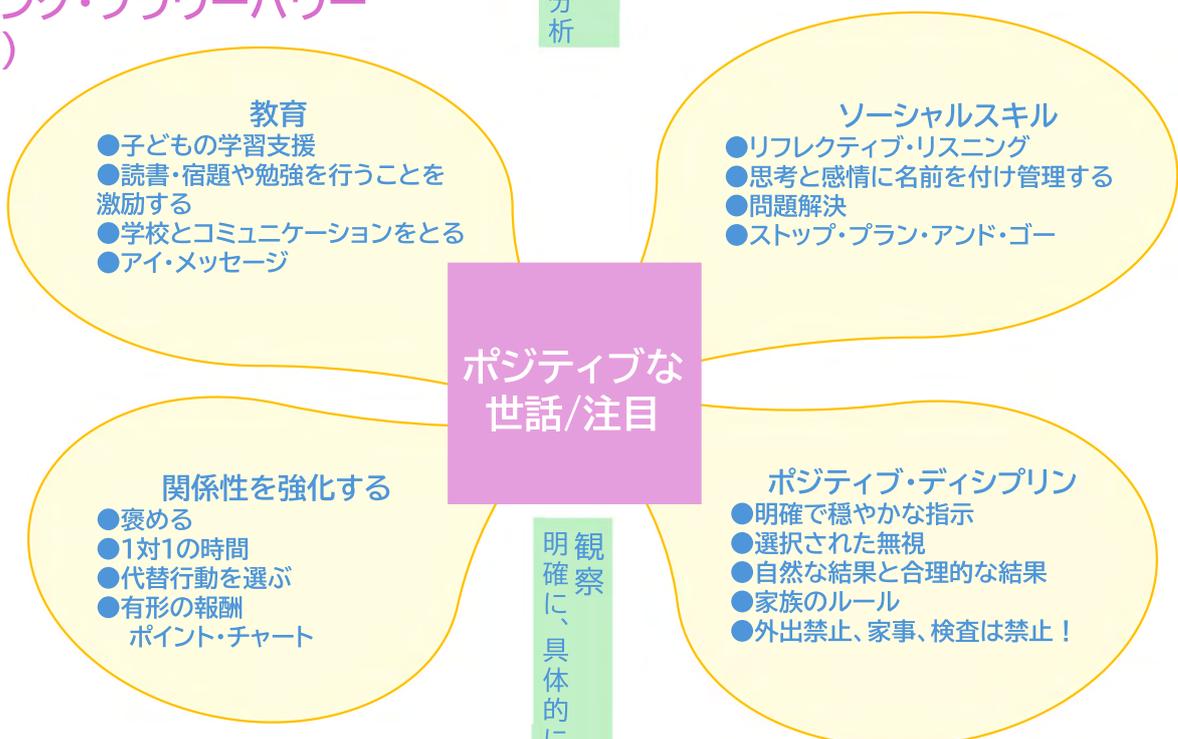
フォスタリング・フラワーパワー  
(通常版)



温もり

観察  
明確に、具体的に、A B C 分析

フォスタリング・フラワーパワー  
(思春期版)



温もり

観察  
明確に、具体的に、A B C 分析

## 2024年フォスタリングチェンジ・プログラムプログラム実施状況の概要 | SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子 |

フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度に福岡と熊本でスタートしました。

2020年からの新型コロナの流行により実施を見送らざるを得ない地域もありましたが、時期の検討や消毒や安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより、実施を続けてきています。2024年度は、全国17地域で21回実施されました。2地域で複数回実施されています。また、参加しやすいように土曜日の実施に取り組んだ地域もあります。詳細は、表1及び各地報告をご参照ください。思春期版は2地域での実施となっています。

ファシリテーター養成講座は、通常版養成講座(4日間)を9月、1月末から2月初旬に2日ずつ前期をオンラインで、後期を対面で実施しました。思春期版養成講座(1日)は、通常版を2回以上経験したファシリテーターを対象に3月にオンラインで実施しました。

FCPも9年目を迎え300名以上のファシリテーターが養成されていますが、異動等もあり、実施体制の強化を図る必要のある地域もでてきています。

ファシリテーターのスキルアップ、質の保証のためのフォローアップミーティングはオンラインにより8月、10月、12月、1月と4回実施しました。



2024年度フォスタリングチェンジ・プログラムプログラム実施状況(表1)

地域	実施時期	対象者	実施主体機関
北海道	9月～11月	7名(養育里親6名、養子縁組1名)	フォスタリングセンター
岩手	9月～11月	4名(養育里親1名、養子縁組1名、他2名)	里親支援センター
茨城	9月～翌1月	3名(養育里親3名)	子ども家庭支援センター
栃木	9月～11月	7名(養育里親3名、養子縁組4名)	フォスタリングセンター
	10月～12月	5名(養育里親3名、養子縁組1名、養育補助者1名)	
東京	10月～12月	5名(養育里親5名)	乳児院
神奈川	5月～7月	6名(養育里親6名)	神奈川県
神奈川	9月～11月	6名(養育里親3名、養子縁組3名)	横浜市里親会
神奈川	9月～12月	5名(養育里親3名、養子縁組2名)	里親養育包括支援センター
富山	9月～翌1月	6名(養育里親3名、養子縁組3名)	児童家庭支援センター
山梨	9月～11月	4名(養育里親2名、養子縁組2名)	里親支援センター
長野	9月～12月	4名(養育里親2名、他2名)	児童相談所
長野	9月～12月	5名(養育里親5名)	乳児院里親支援センター
静岡	5月～7月	6名(養育里親5名、養子縁組1名)	里親家庭支援センター
京都	9月～12月	5名(養育里親1名、養子縁組4名)	家庭支援総合センター
京都	6月～9月	3名(養育里親1名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名)	里親サポートセンター
大阪	5月～7月	4名(養育里親3名、ファミリーホーム1名)	里親子支援機関
	9月～11月	6名(養育里親6名)	
	1月～3月	4名(養育里親2名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名)	
広島	9月～12月	5名(養子縁組4名、ファミリーホーム1名)	児童養護施設・乳児院
山口	9月～12月	6名(養育里親5名、他1名)	里親養育サポートセンター
高知	11月～翌1月	4名(養育里親4名)	里親家庭サポートセンター・乳児院
福岡	9月～11月	6名(養育里親4名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名)	児童相談所・児童家庭支援センター
大分	10月～翌1月	7名(養育里親3名、他4名)	乳幼児総合支援センター

合計 123名 ※他⇒施設職員

## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in北海道

社会福祉法人常徳会 興正フォスタリングセンター  
小野 実佐、佐藤 慧、氏家 さやか

- 【実施主体】社会福祉法人常徳会 興正フォスタリングセンター
- 【実施期間】2024年9月13日～2024年11月29日（毎週金曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】社会福祉法人常徳会 児童養護施設 興正学園 図書館
- 【参加里親】7名（養育里親5名、養子縁組1名、養育養子縁組1名）  
出席率92%
- 【参加体制】ファシリテーター3名、補助スタッフ1名、保育1名
- 【フォローアップ】2025年1月24日（金）10:00～12:00

### ○実施状況

今年で7回目の実施となり、札幌市内でプログラムを経験した方も30名を超えた。その中で新しい子どもを迎え入れたことや改めて学びなおしたいと再参加を望む方も増加しており、今回も2名の方が2回目の参加となったが、初めての参加者にとって良いモデルとなってくれる場面が多くあった。また、当法人で設置している一時保護専用施設から里子が委託となった方も参加している。

今回プログラムは8名で開始したが、里子の体調不良や実親交流支援等で参加できない事情が続き、1名が途中でやむを得ずプログラムをリタイアすることとなっている。

### ○プログラム時に工夫したこと

今回の参加者の参加動機として、自主的な参加に加えて、相談支援の関係性や開催した里親イベントでのコミュニケーションから困り感をキャッチできたことがきっかけで参加を促したケース、当法人がマッチング・交流支援を通して委託になったことで参加を促したケースがあった。札幌市内でプログラム経験者が増加している中で参加者を確保していくという課題について、改めて日頃の支援関係から、里親にとって研修ニーズが高い時期や状態を把握しておくことの工夫が必要であると感じた。また、低年齢の実子がいる里親が、研修期間中は里親の注目が里子に集中してしまうことから、実子にかけてあげる時間が減ってしまったと葛藤を抱えることがあったが、研修参加中の里親の表情が気になりFTから声をかけたことでその葛藤を把握し解消することができた。

### ○まとめと課題

全体として、感染症の流行で体調を崩す方が多く、欠席も多かった。特にリタイアせざるを得なかった方に関しては、補講など個別対応も時間的に叶わず、子どもの体調不良は解決できない課題ながらもお互いにとって心残りになってしまう形となってしまった。内容について、ある参加者は学んだスキルや知識について、課題を抱える親族の子どもに関わりへと発展させており、里子だけに留まらないプログラムの新しい可能性が感じられた。当法人の一時保護委託専用施設から委託されたケースについては、その関係から里子のアセスメントができていくこと・FTと委託交流からの関係性がある中で、支援が途切れることなく委託当初の大切な時期に関わることができた。同時に、例えば里親がネガティブな感情を表現しにくくならないよう、常に里親と里子の状態など慎重に理解して発言する等FT側に配慮が求められることを感じた。

最後に、支援業務が年々拡大している中で事前家庭訪問から事前準備・プログラム実施や託児まで、この長期間の豊富な人員確保が困難な状態になってきている。来年度は体制の検討が必要であると感じている。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in岩手

和光学園 斎藤 あずさ、遠藤 咲乃 / 一関藤の園 佐藤 道也  
みちのく・みどり学園 高橋 伸広 / 清光学園 高橋 佑太  
大洋学園 志田 真理子 / 日赤乳児院 山口 瞳

- 【実施主体】里親支援センターぜんゆう
- 【実施期間】2024年9月5日～2024年11月21日（毎週木曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】岩手県立生涯学習推進センター
- 【参加里親】4名（養育里親1名、養子縁組1名、他2名）  
出席率95.8%
- 【参加体制】ファシリテーター5～7名、スタッフ1～2名、児相職員1～2名
- 【フォローアップ】2025年2月20日

### ○実施状況

里親の参加数が少なかったため、児童養護施設小規模グループ職員も2名参加しての実施となる。里親と施設職員ではあったが、それぞれの垣根はなくお互いの養育や子育ての悩みを共有することができ、各々の満足度は高かったように感じる。

### ○まとめと課題

毎年の課題だが、里親だけで受講者を募ることが困難であり各施設で小規模グループケアでの養育に困難を抱えている職員がいたことから参加の声かけをする流れになった。結果的には実りの多い実施回となったが、今後どのように参加者を確保していくか課題である。

### ○プログラム時に工夫したこと

受講者の情報開示について、施設児童は表記の仕方等工夫した他、守秘義務についても情報公開禁止と写真撮影について同意書に記入してもらった。

また、記録の取り方やファシリテーターの役割の工夫を行うことで、岩手の強みであるチームワークを活かすことが出来た。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in茨城

社会福祉法人茨城県道心園 子ども家庭支援センター「どうしん」 西野 聡美  
 社会福祉法人誉田会 児童養護施設誉田養徳園 及川 かほり  
 社会福祉法人同仁会 児童家庭支援センターあいびー 梅澤 摩耶、新山 美希

- 【実施主体】 社会福祉法人茨城県道心園  
 子ども家庭支援センター「どうしん」
- 【実施期間】 2024年9月25日～2025年1月15日（毎週水曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人茨城県道心園 道心園東ホーム
- 【参加里親】 3名（養育里親3名）  
 出席率97.2%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、スタッフ2名

### ○実施状況

参加された里親は少人数だったものの、ファシリテーター養成講座受講直後の職員や地域の里親支援専門相談員も出席することで会場の人数は一定数保たれており、グループの創設に大きな影響はなかった。また、委託児童の年齢が近いこともあり里親同士、互いに多くの共感が得られた様子であり研修終了後には互いの連絡先を交換する姿も見られた。里親の養育に対するスタンスや性格が異なっていたことから、一緒に参加された方の意見に耳を傾け自身の養育を振り返られたり、新しく取り入れたり柔軟に対応されている様子も伺えた。出席率も非常に高く、意欲的なグループであり、ファシリテートをする際にも非常にスムーズであった。

### ○プログラム時に工夫したこと

参加された里親が少数であったため、事前に事務局へ確認し、関係者に出席を募ることでグループの創設に対応した。また、参加者はもちろんのことファシリテーター等も会場までの移動距離に時間を要す方が多く、時間厳守よりは安全第一をお願いして実施。また、セッション時には、家庭での実践のフィードバックを丁寧に扱うことで、日常の困り感を少しでも解消できるよう心掛けた。参加人数も少数だったため、会場の雰囲気も児童養護施設の空きユニットを利用し、アットホームな環境を整えたためリラックスしていただけたと感じる。



### ○まとめと課題

参加された里親さんから「今日はどんなふう褒めてもらえるか楽しみ」という言葉が聞かれ、非常に印象的であった。12セッションという非常に長いスパンの研修を楽しみにして下さっていたことは、ファシリテーターとしても非常に嬉しく感じた出来事であった。今後は、参加人数の確保や、開催会場の立地条件等、課題も残されている。県内のファシリテーターが徐々に増えているため、各々セッションを分担しながら進行できるよう事前打ち合わせ等にも注力したい。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in栃木

栃木フォスタリングセンター 畠山 憲夫、赤羽 朋子、湯澤 典子  
 児童養護施設きずな 堀江 美景 / 児童養護施設桔梗寮 伊藤 幸恵  
 児童養護施設養徳園 永山 美佳 / 児童養護施設氏家養護園 芳村 寿美子  
 NPO法人だいじょうぶ 畠山 由美

【実施主体】 栃木フォスタリングセンター  
 【実施期間】 2024年9月6日～2024年11月22日（毎週金曜日）10:00～13:00  
 【実施場所】 パルティ とちぎ男女共同参画センター  
 【参加里親】 7名（養育里親3名、養子縁組4名）出席率94%  
 【参加体制】 ファシリテーター5名、保育委託事業者

### 12+ 思春期版

【実施期間】 2024年10月1日～2024年12月17日（毎週火曜日）10:00～13:30  
 【実施場所】 パルティ とちぎ男女共同参画センター  
 【参加里親】 5名（養育里親3名、養子縁組1名、養育補助者1名）出席率90%  
 【参加体制】 ファシリテーター4名

### ○実施状況

今年度は9月から通常版を、10月から12+を同時進行で実施した。通常版のファシリテーターは、センター職員3名と児童養護施設 里親支援専門相談員2名の5名で実施。初めてプログラムを実施するファシリテーターが3名、4回目の実施となるファシリテーターと連携しながら準備を進めた。初の実施となる12+は、センター職員1名と児童養護施設 里親支援専門相談員2名、NPO法人職員1名の4名で実施。

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・入室時や休憩に音楽を流したり声掛けを行い、リラックスできる雰囲気や居心地の良い空間づくりを心掛けた。
- ・参加者の交流やリフレッシュできるようなおやつ等を毎回準備したほか、12+は終了時間を考慮し、休憩時間に空腹を満たせる軽食等を準備した。
- ・ZOOM又は対面にて欠席者へのフォローを実施。
- ・セッション後にファシリテーターの振り返りや次週の準備を毎回実施した。
- ・セッション毎の内容をA4プリント1枚にまとめ、毎回配布した。（通常版）
- ・託児が必要な時に外部委託により子どもの預かりを実施した。



### ○まとめと課題

不安と緊張を抱えて参加した方も回を重ねるごとに会話が増えていき、積極的に発表する姿が見られた。また子どもの様子が変わったという声も多く、参加者の変化やグループの力を実感したプログラムだった。反省点としては、家庭での実践がまとまらず時間を超過することもあり、ファシリテーターのスキルアップの必要性を痛感した。多々反省点があるが、次回に活かしていきたい。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in東京

社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院  
宮内 珠希、藤本 和紗、長谷川 優子

- 【実施主体】社会福祉法人二葉保育園 二葉乳児院  
 【実施期間】2024年10月3日～2024年12月19日（毎週木曜日）10:00～13:00  
 【実施場所】二葉乳児院 法人本部3階会議室  
 【参加里親】5名（養育里親5名）  
 出席率95%  
 【参加体制】ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー7名  
 【フォローアップ】令和7年6月に実施予定

### ○実施状況

参加者はいずれもモチベーション高く、積極的にプログラムに参加している。都内全域が対象のためお互いを知らない参加者が集まり、初回は緊張感もあったが、15分の休憩時間に互いに話をしたり、家庭での実践のフィードバックで里親同士話したりすることでお互いに安心感を持ち、日々の養育での悩みなどを話す様子が見られた。実子がいる里親が3名おり、1家庭は実子の年齢が学齢期だった。委託児の年齢に近い里親同士で共感しあえる場面が多く、FCPで他の里親と話をする機会がモチベーションに繋がっている様子であった。回を重ねるごとに一体感が醸成され、方略の使い方を教え合ったり他の里親の意見へのリアクションが活発になったりしていく姿があった。

### ○プログラム時に工夫したこと

基本はファシリテーター3名で進めた。各回2名でセッションを分担し、1名は里親とのロールプレイの相手役となる等のサポートをした。

セッションで学んだことを家庭での実践に繋げられるよう、持ち帰ることが出来るハンドアウトを見てもらいながら説明を行った。また、セッションの最初に前回のセッションの振り返りと概要の説明を行った。

欠席者には口頭の説明やzoomを使用したフォローを行った。

### ○まとめと課題

開始直後は家庭での実践が参加者の負担になっているような発言が見られる時があった。フィードバックの際に安心感を持てるよう、フォローが必要だった。

フィードバックの際に、捉え方の修正が必要な場合もあり、里親の理解に合わせた声かけが難しいと感じるときもあった。

里親自身の養育観とFCPで取り扱う対応がずれているときに、抵抗感があると話す里親がいた（子どもに限界を設定する等）。

各セッションで取り扱ったスキルについて、必要がなければ使わなくてもいいこと、より基礎的なスキルで対応できる場面もあることを繰り返し説明した。

FCPでの説明内容が東京都の現状を異なる場合があるため、補足やフォローが必要だったが、現状理解の知識が不足、うまく伝えられないこともあった。

質問への対応に時間をかけてしまったり、参加者の意見を聞く場面で時間の調整が出来ず、10～15分延長してしまうことが複数回あった。時間通りに終えることも課題。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川

ゆりかご園 安立 七恵 / 鎌倉児童ホーム 宮崎 千鶴子  
唐池学園 川本 由美子 / 白十字会林間学校 石井 千代子

- 【実施主体】 神奈川県
- 【実施期間】 2024年5月10日～2024年7月26日（毎週金曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 里親センターひこばえ
- 【参加里親】 6名（養育里親6名）  
出席率100%
- 【参加体制】 ファシリテーター4名、スタッフ2名
- 【フォローアップ】 2024年11月18日(月)  
宮崎 千鶴子、川本 由美子 2名参加

### ○実施状況

- ・欠席、離脱者なく受講者全員に修了証を授与
- ・幼稚園行事等で開始時間に遅れた受講者には、休憩時間内でフォローをおこなった。
- ・養育している子どもの年齢幅が広く（2歳～12歳）養育期間、複数委託、里親経験も様々なチーム構成になったが、子どもの対応について受講者同士で学んだことを思い出しながら考え、お互い声を掛け合い、相談しあえるチームに成長していく素晴らしい様子が見られた。

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・初回開催の為、プログラム進行状況を共有するため、ファシリテーター6名中2名は事務局とタイムキーパーの役割を明確にして会場に同席することで、受講者にとって不安を抱かせずに「安心できる場」であることが伝わり、受講者が悩みや考え、意見を発信できFCP効果を後押しする結果につながることができた。
- ・家族構成表に毎回イラストの追加を行い、セッション振り返り及び事前打ち合わせで必要と思えたセッション生産物（模造紙等）を他のセッション開催時にも掲示した。
- ・地域の里専としての関わりで、濃厚な関係性のケースも他地域の為希薄な関係性のケースも変わりなく接するよう心掛けた。
- ・会場入室時の歓迎ムードの加減や休憩時の季節感や視覚・聴覚的効果の工夫、昼食時間を跨ぐタイムスケジュールであることを加味したおやつ内容を提供することで、受講者から「大切にされる」を体感できたと、早い段階で感想を伺えた。

### ○まとめと課題

- ・初回開催の為、マニュアルの読み込みと事前準備、実施後の振り返りを丁寧に行い、ファシリに限らず運営スタッフも含めて共有することで、立ち位置の違いによる気付きや言葉の受けとりや感じ方を多角的視点の意見交換でFCPの基本に沿った実施につなげることができた。
- ・8回目にコンサルテーションを受け、不安を解消し後半に活かすことができた。
- ・ファシリテーターのセッションの割り振りの方法
- ・思春期版（+12）の開催



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in横浜

こどもみらい横浜  
福島 里美、野澤 実希、宮地 恵子

- 【実施主体】 一般社団法人 こどもみらい横浜
- 【実施期間】 2024年9月12日～2024年11月28日（毎週木曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 万国橋会議センター
- 【参加里親】 6名（養育里親3名、養子縁組3名）  
出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名
- 【フォローアップ】 2025年1月16日(木) 10:00～13:00 7期生  
2025年1月23日(木) 10:00～13:00 6期生

### ○実施状況

- ・児相からの勧め、本プログラムを受講した里親からの勧めで申し込みがあった。
- ・普段はサロン等に参加しない里親が大半であったが、回を重ねるごとに受講者同士が繋がりを持つことができ安心して相談をする関係ができた。
- ・各里親の課題に対して、受講者全員が親身になり傾聴する姿勢があり、それぞれの経験からよりよく関わるためのアドバイスをする場面が多く見受けられた。
- ・外国語での対応が必要な受講者がいたため英語版の資料を用意し対応をした。

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・里子の体調不良で会場にこられない時は、自宅で研修を受けられるようにZOOMにて参加してもらったり、録画をして改めて視聴できるようにする等の対応をした。
- ・困難な課題を抱えている里親に対する対応策について振り返りの場面で情報交換を行った。
- ・明るい気持ちで参加できるように会場の装飾の工夫をし、カフェコーナーを充実させることで息抜きする時間を設けた。

### ○まとめと課題

- ・里子の体調不良や仕事等で欠席する受講者がいたが、資料の郵送、電話、録画視聴でのフォローを行い、欠席した回の内容について充分理解されている様子が伺えた。
- ・フォローアップ研修を控えているが「フォローアップ研修後も定期的に集まりたい」とのご意見が多数あがっている。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in神奈川

相模原市里親養育包括支援センター  
長田 順子、平山 みゆき、内山 博子、富永 達彬、田中 結

【実施主体】相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら  
【実施期間】2024年9月12日～2024年12月5日（毎週木曜日）10:00～13:00  
【実施場所】相模原市里親養育包括支援センター ふうせんかずら  
【参加里親】5名（養育里親3名、養子縁組2名）  
出席率97%  
【参加体制】ファシリテーター5名、スタッフ1名  
【フォローアップ】第1期(2023年度)受講者向け 12月7日

### ○実施状況

相模原市2回目の実施。市内登録里親全戸にチラシを郵送し参加募集をかけたが、申込が少なく、関心ありそうな方々に声をかけ人数を確保した。

予定通りの日程で、参加率や参加意欲の高い状態を維持しながら全員修了できた。

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・今年度は定刻に終了できることを目標に、タイムキーパーを置き時間管理を心掛けた。
- ・セッションが進むにつれ、家庭の実践フィードバックが予定時刻よりも長引くようになったため、予め発表して欲しい項目、一人当たりの持ち時間を提示し、参加里親にも時間を意識して発表してもらえるようにした。
- ・「今週の家庭の実践（準備）」について、参加里親が焦点をあてる行動を特定することが難しそうな時には、ファシリテーターが分散して個々につきフォローした。
- ・セッション3で模造紙に書き上げた「子どもに喜びや感謝を伝える言葉」について、以降のセッションでも毎回掲示し、参加里親が思いついたワードを書き足していきながら、グループで共有し語彙を増やしていった。各自スマートフォンで保存して家庭で見返す等し、日々の実践に活かすことに繋がった。
- ・ロールプレイ等で方略に挑戦してみる際、映写された情報を見ながら実践することが大変そうであったため、アテンディング、リフレクティブリスニング等の方略ポイントをカードにし手元で確認しながら取り組めるようにした。
- ・ストレッチシチュエーションの動画で、注目すべき箇所印をつけたり、文字を挿入する等、動画編集をしたことで見やすくなった。

### ○まとめと課題

昨年度の初回開催時はセッション1回1回を運営していくことに必死だったが、今年度はセッション中に起こりそうなことを予測し工夫したり、参加里親からの質問をファシリテーターが答えるのではなく、できるだけグループに委ねる等がいくらかできるようになった。欠席者については補講を行ったが、グループで学ぶことに常に重きを置き、補講とのバランスを見直していきたい。また各セッションを充実できるように、伝わりにくかった方略等を見直し改善していきたい。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in富山(2-1)

児童家庭支援センターaid  
本江 裕子、本江 亜耶子、松尾 祐子

【実施主体】一般社団法人ストレングス 児童家庭支援センターaid  
【実施期間】2024年9月22日～2025年1月12日（毎週日曜日）9:30～12:30  
【実施場所】児童家庭支援センターaid プレイルーム内  
【参加里親】6名（養育里親3名、養子縁組3名）  
出席率70% ※毎回ではないが夫の参加あり→夫婦4組  
【参加体制】ファシリテーター3名、託児保育士3名・ボランティア学生3名  
【フォローアップ】2025年7月6日に実施予定

### ○実施状況

- ・昨年度参加里親が再度受講希望がありスキルの振り返りもかね里親さんが数名参加していた。
- ・先輩里親として初参加者を気遣い言葉を引き出す良い環境ができた。
- ・里親の里子に対する要求水準が高い事、自分がしっかり子育てをしないと！と里母は思っていることが往々にある。今困っていることは子どものわがままでも自分の養育の失敗でもない事を先輩里親からの体験談を通して知る機会となった。
- ・今回は児童相談所からの紹介里親さんの参加が3名あり児相担当者との連携も図り同じ目線での言葉かけに努めた。親も困っているが子ども自身が一番困っている、二次障害がでてこないようあるいは今見られる二次障害が軽減する予防の方法をペアトレで学ぶ有効性を伝えた。
- ・富山は共働き夫婦が殆どをしめ仕事をもつ方が参加しやすい日曜日に子どもの託児も実施する、其の為ご夫婦での参加もあった。子ども達は毎週会うことで仲間意識も芽生え保育士の見守る中、安心して活発に活動していた。また、福祉短大学生が毎回2～3名託児ボラで参加し実際の里親家庭を知る機会となった。里子が抱える問題行動（多動・喧嘩・甘え）にも直面し卒業後、保育現場で活かせる学びを体験した。

- ・アメリカ人の里父さんも参加し里親仲間として声をかけあつての会場は温かい空気に包まれた。英語が堪能な里親さんが横に着きスキルの説明をした。逆に里パパさんから英語でのスキル言葉の意味を分かり易く説明し教えてもらった。
- ・ロールプレイは活発に役になりきり子どもの気持ちがより一層わかった！との感想が聞かれた。
- ・仲間意識が芽生え終了後も立ち止まり会話しその後、数名は外食に出かけ1日過ごす様子が毎回あった（参加者全員に声をかけ行ける家族で出かけていた）
- ・参加者からクリスマス会がしたい！との要望もあり持ち寄り食材で楽しんだ。里父さんがふんしたサンタクロースからプレゼント（里親さんが持ち寄る）をもらい親子で楽しむ場面ももてた。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in富山(2-2)

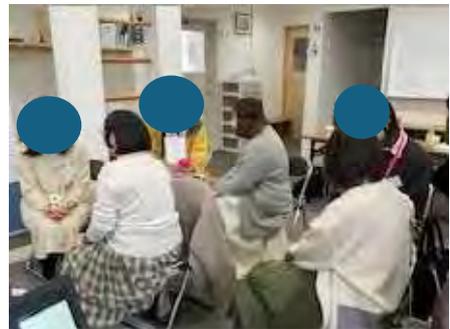
児童家庭支援センターaid  
本江 裕子、本江 亜耶子、松尾 祐子

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・ 家族構成をファシリテーター側が把握しておく事（里親里子だけの問題ではなく祖父祖母の存在もあり何かしらストレスを抱えている時がある）
- ・ 里親の頑張りをねぎらい出来ているところを褒め 枠組を保ちながら安心して話せる場をつくる事。理論に基づき具体的なアドバイスも提案し子どもとの関わり方を考えていく方向性やり方は出来る限り肯定的に受け止め親が褒め上手になる事をファシリの演技で伝えた。

### ○まとめと課題

- ・ 来年度は、午睡の必要がない年齢児が殆どのため午後からの（13:00～）開講に変更予定である。参加しやすい日時を選ぶ事が里親会の行事も把握し決定する。
- ・ 子どもの特性を知る、問題行動が全て愛着障がではなく子どもの特性を知り二次障害にならないよう多様なケースが考えられる（託児をすることで子どもの特性も把握する→保育士からの聞き取り重視）
- ・ 児童相談所担当児童福祉司との連携が必要ファシリ等の支援者が全て理解できておらず情報交換から同じ方向性を持って関わる事。
- ・ 外国籍里親さんへの言葉の配慮・価値観への理解も大切な課題である。
- ・ フォローアップの開催について（近況報告）
- ・ ファシリの学ぶ機会を持つ（スキル練習等）



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in山梨

くずはの森 子育て・発達の里 乳児院ひまわり エール里親支援センター  
田村 由美子、松土 裕美、市川 千絵、堅田 早紀、浅川 文乃

- 【実施主体】 社会福祉法人 子育て・発達の里 乳児院ひまわり  
社会的養育機関エール里親支援センター
- 【実施期間】 2024年9月12日～2024年11月28日（毎週木曜日）10:00～13:00  
※10月16日のみ水曜日開催
- 【実施場所】 子育て・発達の里 乳児院ひまわり  
社会的養育機関エール里親支援センター 会議室
- 【参加里親】 4名（養育里親2名、養子縁組2名）  
出席率92%
- 【参加体制】 ファシリテーター5名、スタッフ2名

### ○実施状況

今年度は、新たにファシリテーター2名が加わり、ファシリテーター5人で実施した。参加された方はこどもへの理解度が高く、各回プログラムに真剣に取り組んでくれた。

ロールプレイでは最初は、緊張感もあったが、回数を重ねると、「ロールプレイをすることが楽しい。」という感想も聞かれた。最後まで雰囲気良く、参加者の人柄や真剣に取り組む姿勢にファシリテーターが助けられることも多くあった。

プログラム終了後に集まって話をしている様子から、参加者同士の良好な関係を築くきっかけにもつながったと感じる。

### ○まとめと課題

最後まで雰囲気良く実施することができた。こどもの体調不良や仕事の関係で欠席をした参加者もいたが、フォローを丁寧に行ったことで欠席者もスムーズに次のセッションに入ることができた。ファシリテーターだけでなく、スタッフが2人いたこともあり、PCの操作やおもてなしも丁寧に行うことができた。

こどもの年齢や特性によってはスキルが実施できない家庭もあり、苦労している参加者がいた。参加者のこどもにあった、説明の仕方や実施方法を考える必要性を課題と感じる。

### ○プログラム時に工夫したこと

家庭での実践の振り返りは毎回丁寧に扱うことができた。理解しにくい理論については、心理士（専門職）からわかりやすいように説明を行い、事例を挙げる等参加者が理解しやすいよう配慮した。また、セッション終了後の参加者アンケートの回答を反映させ次のセッションを進行するよう意識した。欠席者には後日訪問を行い、丁寧なフォローをすることもできた。

参加者へのおもてなしは季節を意識したお菓子や装飾をし、最後の贈り物には参加者それぞれに向けてのメッセージカードや色紙を用意し、とても喜んで貰えた。

プレゼントの一つである鉢植えには「新たな門出」という花言葉があるカラーを選び、参加者へ向けた今後の応援メッセージを込めることもできた。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in長野

風越乳児院 吉田 千佐紀  
おさひめチャイルドキャンプ 吉川 千那美

- 【実施主体】 飯田児童相談所館内
- 【実施期間】 2024年9月11日～2024年12月4日（毎週水曜日）9:30～12:30
- 【実施場所】 飯田児童相談所
- 【参加里親】 4名（養育里親2名、他2名）  
出席率91.6%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ3名、オブザーバー2名  
保育1名
- 【フォローアップ】 2025年度実施予定

### ○実施状況

参加者は飯田児童相談所管内で募集、里親以外に施設職員を含めた4名での実施となった。4名ということもありアットホームな雰囲気で行われたことは、参加者にとってはもちろん、ファシリテーターにとっても安心できる環境となったのではないかと思う。また、参加された里親に委託されている里子が幼いということもあり、問題となる行動を特定することができないこともあり、家庭での実践のフィードバックは微笑ましいエピソードをお聞きする機会となるが多かった。その反面、里子が小さいがゆえに実践に戸惑いを感じられたような場面もみられた。ただ、今は実感がなくても、今後養育していくなかでいつの日か使うことができるスキルとして学びたい、そんな姿勢で参加いただいたこともあり、最後の評価では「今後活かしたい」という声がかかれた。内容によっては、参加者が少ないがゆえに時間をかけられたところがあり、臨機応変に対応ができたように思う。

### ○プログラム時に工夫したこと

里親と施設職員という組み合わせということもあり、席順やペアワークの組み合わせ方に悩まされた。また参加者から、スライドのプリントを希望する声があがり、セッション終了後にお渡しするようにした。里子が未就園児という里親がいたことから、児童相談所内で託児を設けるようにした。託児にはスタッフが入ることもあったが、施設の協力もあり職員を派遣してもらえた。

### ○まとめと課題

スタッフの打合せはもう少し丁寧に行うことができるとよかったように思うが、日々の業務の合間を縫って実施した本番と、それに加えての打ち合わせは、皆のスケジュール調整が難しいと感じた。

地域の特性柄、車で1時間ほどの地区から通っていただいた方が半分を占め、12週間というのはいろんな意味で負担が大きかったように感じた。参加される皆さんにとって負担が少ない参加方法が検討できるといいなと思う。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in長野

松本赤十字乳児院里親支援センターひまわり 小林 磨華  
松本赤十字乳児院 鎌倉 美枝

- 【実施主体】 松本赤十字乳児院里親支援センターひまわり
- 【実施期間】 2024年9月19日～2024年12月12日（毎週木曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 松本市波田 第3区町会公民館
- 【参加里親】 5名（養育里親5名）  
出席率93%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2名、オブザーバー2名
- 【フォローアップ】 2025年7月31日（火）

### ○実施状況

今年度、松本赤十字乳児院里親支援センターひまわりが松本児童相談所の協力を得て、初の実施をした。参加者を公募し5名の参加者が集まった。全員が養育里親であり、経験年数に関係なく、それぞれの立場の意見を尊重し合い、誰一人欠かせないグループになっていった。自主的、主体的に気づきや意見を出し合い、自分の養育に合う形を見つけていかれる姿に、ファシリテーターやスタッフも多くを学ばせていただいた。

### ○まとめと課題

社会的養護に特化した本プログラムは、委託後早い段階で、どの里親にも提供したい内容だと思われる。受講した里親からは、「里親養育の基本として必要な研修だと思う」という意見の一方で、「内容や言葉等が難しい」との意見もいただいた。また、今回は5名の受講者だったが、今後継続して開催できるような県全体の実施体制を検討していく必要があると思われる。

### ○プログラム時に工夫したこと

プログラム全体を通して、楽しくリラックスして参加できるようメンバー間のコミュニケーションや温かい雰囲気づくりを重視した。また、各セッションの評価表の記述内容（特にコメント欄）をスタッフ全員で共有した上で、必要に応じてカタカナ用語、各セッションのポイントをプリントに示した。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in静岡

認定NPO法人 静岡市里親家庭支援センター  
佐野 多恵子、柚 望美

- 【実施主体】 認定NPO法人 静岡市里親家庭支援センター
- 【実施期間】 2024年5月8日～2024年7月16日（毎週火曜日）9:30～12:30  
※第1週のみ水曜日
- 【実施場所】 静岡市児童相談所内 大プレールーム
- 【参加里親】 6名（養育里親6名）  
出席率72%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名、アシスタント1～2名、オブザーバー2名

### ○実施状況

静岡市は体系別研修プログラムにFCPを組み込んでいる。乳幼児のアタッチメント研修受講後、次の段階として就園後から小学校中学年までの里子（養子）を養育中の里親を対象に受講することとなっている。今年度は6名が参加する運びとなった。各研修における参加対象年齢を明確にしてあるため、里親は養育中のこどもの年齢でFCP受講のタイミングを見通せる仕組みになっている。

### ○プログラム時に工夫したこと

養育・養子縁組里親の参加者6名のうち2名が特別養子縁組をしている。社会的養護（出身）のこどもであるという点では、参加者がFCPで使う各方略とも有効であった。プログラムの内容を養育に結び付けて考えられるようそれぞれ子どもの発達状況・特性や里親の養育スタイルに合わせた言い回しを工夫した。また、以前FCPに参加した里親が次の委託児童を対象に再度参加を促した。昨年度参加者を各回1名ずつ復習の機会として参加することにより、グループ作りがスムーズにいき、当人および他参加者の理解も進みやすかった。

### ○まとめと課題

里親同士が顔見知りのため、そこに対する緊張はなかったが、プログラム開始当初は発言をためらったり、考え込んだりする様子も多々見受けられた。参加者同士の話し合いを増やしたり、小グループのメンバーを意図的に設定することでセッションを重ねるごとに積極的に参加するようになった。プログラムの中で自身の養育を振り返り、良い関係性を築き、子どもの成長を促すための関わり方をそれぞれが真摯に考え、養育に対する心持ちが良い方向に変化したように感じた。

今回、体調不良や子どもの都合で複数回の欠席者が2名おり、修了証を発行できなかった。該当里親は来年度欠席回に参加後、修了証を発行する予定である。参加者の理解度が各セッション、各方略により違うため、全体を通して一定の理解とすることや学習を深めることが難しく、課題であった。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in京都

京都府家庭支援総合センター 大戸 淳志 / みねやま福祉会 峰山乳児院 宮下 恵  
みねやま福祉会 てらす峰夢 高橋 綾乃 / 盛和福祉会 乳児院京都大和の家 土出 亮子

- 【実施主体】 京都府家庭支援総合センター
- 【実施期間】 2024年9月17日～2024年12月10日（毎週火曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 京都府乙訓保健所 講堂
- 【参加里親】 5名（養育里親1名、養子縁組4名）  
出席率98%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名
- 【フォローアップ】 2025年2月18日(予定)

### ○実施状況

スタッフ体制は変わらず、京都府内で一番北にある乳児院と児童養護施設、一番南にある乳児院、それぞれの里親支援専門相談員と両施設からも離れている児童相談所の里親養育支援福祉司が協力して実施した。

今年は参加者を公募で募り実施したが、会場まで1時間程度かかる所からの参加希望者も多く、ニーズの高さを感じた。プログラム中の意欲的な発言や、修了時の達成感や満足感を得たという報告から、ファシリテーターもやりがいを感じながら実施できた3か月となった。

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・参加者で「京都さとおやグループLOVE」と、グループ名を付けて、このグループに愛着を持つようにした。
- ・喫茶コーナーに金木犀を飾ったり、ハロウィンやクリスマスの飾りつけをして、季節感を取り入れて楽しんだ。
- ・各セッションのワークや家庭での実践結果を記載した模造紙等の画像を、ファシリテーターのフィードバックを添えて渡し、修了後も自分たちの成果や学習を見返せるようにした。
- ・ロールプレイが具体的にイメージできるように、設定をしっかり作り上げた。



### ○まとめと課題

- ・参加した複数の里親が、会場から離れた居住地から参加していて、ニーズの高さを感じた。
- ・自分の学習だけでなく、周りかフィードバックを受けたり、他の里親の実施報告や考え方を聞くことで、子どもへの対応の仕方や、プログラム中の感想も良い方向へと変わってきた。集団で行うプログラムの強みを感じた。
- ・今の実施体制では、開催場所が限られ、職員の異動等があれば継続開催が困難になってしまうため、府内の実施体制の構築が課題。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in京都

社会福祉法人 積慶園 きょうと里親支援・ショートステイ事業拠点(ほっとはぐ)  
武田 由、青木 千容

### 12+ 思春期版

- 【実施主体】 里親サポートセンター青い鳥
- 【実施期間】 2024年6月20日～2024年9月26日（毎週木曜日）9:30～12:30
- 【実施場所】 ほっとはぐ2階和室
- 【参加里親】 5名（養育里親1名、養子縁組4名）  
出席率100%
- 【参加体制】 ファシリテーター2名
- 【フォローアップ】 2024年10月17日、2025年3月6日

#### ○実施状況

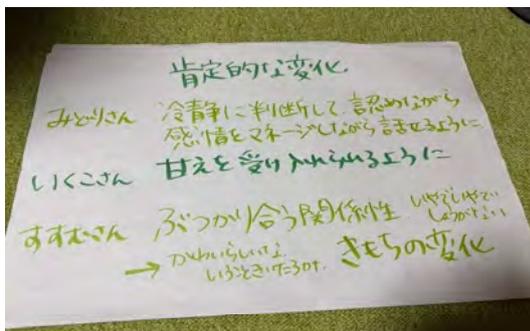
今年度は、FCP+12を初めて実施した。3名の参加者がそれぞれに、十分に話しができる環境で、プログラムを進めていくことができた。その中で、自身の考え方への気づきがあり、子どもの行動への理解に対する視点が広がり、関わり方が明確になったことで、子どもと里親の関係性に変化が見られた。

#### ○プログラム時に工夫したこと

3時間半という長い時間の研修のため、体勢に負担がかからないよう、それぞれの状況に合わせて、座る位置や、椅子の高さを調節した。

#### ○まとめと課題

思春期バージョンは、あまり変化が見られないと思っていたところ、意外にも効果があったことに驚いた。+12はあまりにも日本語の説明が資料通りでは通じないため、かなり改変する必要があるところが課題である。思春期バージョンを受講したい里親さんからの問い合わせが多く、ニーズがあることがわかった。参加しやすい開催日の設定を考えていくことが課題である。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in大阪

里親子支援機関えがお 牧野 博子  
 児童養護施設 清心寮 横山 泰直  
 児童養護施設 大阪西本願寺常照園 高橋 宗近

### 通常版

【実施主体】 NPO法人 里親子支援機関えがお  
 【実施期間】 2024年5月12日～2024年7月23日（毎週木曜日）10:00～13:00  
 【実施場所】 門真市民プラザ（門真市）  
 【参加里親】 4名（養育里親3名、ファミリーホーム1名）出席率87.5%  
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ2名、オブザーバー3名

### 12+ 思春期版

【実施期間】 2024年9月3日～2024年11月27日（毎週火曜日）10:00～13:30  
 【実施場所】 富田林市民会館（富田林市）  
 【参加里親】 6名（養育里親6名）出席率97%  
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー5名

### 12+ 思春期版

【実施期間】 2025年1月7日～2025年3月27日（毎週火曜日）10:00～13:30  
 【実施場所】 茨木市オニクル（茨木市）  
 【参加里親】 4名（養育里親2名、養子里親1名、ファミリーホーム1名）出席率92%  
 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名、オブザーバー2名

### ○実施状況

2024年度は5月に12歳以下9月、1月に12歳以上を開催。12歳以上は大阪府南方面と北方面とでの出張研修を開催。1月は現在開催中。3月末には14名ほど修了生が増えることになる。

### ○プログラム時に工夫したこと

12+研修において「迷信さがし」や「進学データ」のデータを最新のデータにアップデートして報告したり、日本の情報に置き換えたりして伝えた。セッションのなかでファシリ3名でローテーションしていくが、どの役割になってもそれぞれのファシリが熟せるように開催事にそれぞれの役割を変えていき質の担保に努めた。



### ○まとめと課題

大阪府は6年目に突入し、修了生は12歳以下、12歳以上あわせて延べ80名を超える。2024年度は大阪府と連携し、各支援機関と里担の児相職員約50人にFCP12歳+のデモンストレーションを開催。多くの支援者に対してFCPへの深い理解に努めている。課題としては、12歳以上の研修時に12歳以下の修了生も受講しているため、初めて参加する受講生との間に習得スピードの差を感じた。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in広島

広島修道院  
竹内 まり子、大田 直枝、藤本 真紀

- 【実施主体】 広島修道院
- 【実施期間】 2024年9月17日～2024年12月10日（毎週火曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 東広島市の里親さんの空き家になった実家を利用
- 【参加里親】 5名（養育縁組4名、ファミリーホーム1名）  
出席率95%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名
- 【フォローアップ】 3ヶ月後3月上旬実施予定

### ○実施状況

スタート時に子どもの骨折でS1,2の2回欠席1名、仕事の関係でS6を1回欠席1名、他全出席

### ○プログラム時に工夫したこと

- ・例年であれば、修道院が会場だったが、今回東広島市で開催することで、これまで遠方で参加しにくかった里親さんが参加しやすい環境となった。
- ・会場が山の中で気温も低い為、暖かいコーヒーやスープを準備したのが好評だった。

### ○まとめと課題

- ・学ぶ意識の高い里親さんが多く、積極的にアドバイスを求めたり受け入れたりできるいい関係作りができていた。
- ・プログラム終了時に里親さん自身の変化をご自身でも感じ取られていたのがうれしかった。
- ・会場の古民家の広い縁側から牛の放牧の様子見え、大自然の空気の中で、携帯電話も繋がらない環境に始めは戸惑いもあったが、次第に心地よい時間となり、ファシリ自身も気持ちが変わる時間となった。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in山口

里親養育サポートセンターれりーふ 田坂 仁、藤井 有紀  
山口育児院 中内 圭一 / ライクホームはるか 坂岡 亜由美

- 【実施主体】 里親養育サポートセンターれりーふ
- 【実施期間】 2024年9月20日～2024年12月6日（毎週金曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 社会福祉法人 防府海北園
- 【参加里親】 6名（養育里親5名、他1名）  
出席率83%
- 【参加体制】 ファシリテーター3名、スタッフ1名
- 【フォローアップ】  
2024年6月14日(金) 10:00～12:00（2018～2023年度受講者対象）  
2025年3月7日(金) 10:00～12:00（2024年度受講者対象）

### ○実施状況

全セッション対面で実施。会場は県中部。2018年から実施し、今回初めて親族里親が参加された。里親5名、施設職員1名の計6名でスタートし、途中欠席されることはあったが、全員修了することができた。

### ○プログラム時に工夫したこと

ファシリテーターは前年度と同じメンバー3名で行ない、他1名がサポート役を行なった。事前の打ち合わせ時に、前年度の振り返りを参考にしていたので、改善がしやすかった。  
欠席者へのフォローは、可能な限り訪問して直接説明をし、訪問ができなかった時は、ZOOMを活用した。

### ○まとめと課題

今年度は、同じ敷地内ではあるが、これまでとは違う会場で実施した。広さは少し狭くなったが、参加者同士も話がしやすい環境になったと思う。  
エクササイズは内容を少し変更したりして対処したが、参加者の人数が多くなった場合は、会場を元に戻すなど検討する必要がある。セッションによっては分かりにくい内容もあるため、ファシリテーターがわかりやすく伝えるスキルを身につける必要がある。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in高知

高知聖園ベビーホーム 里親家庭サポートセンター結いの実  
楠瀬 理歩、森光 綾子、坂本 夏代

【実施主体】高知聖園ベビーホーム 里親家庭サポートセンター結いの実  
【実施期間】2024年11月5日～2025年1月28日（毎週火曜日）12:30～15:30  
【実施場所】高知支部複合棟 misono  
【参加里親】4名（養育里親4名）  
出席率93.7%  
【参加体制】ファシリテーター3名  
【フォローアップ】2024年3月3日(月) 10:00～13:00（1～3期生）  
2025年4月22日(火) 12:30～15:30（4期生）

### ○実施状況

2024年10月に完成したばかりのホールで実施した。当初6名が受講予定だったが、2名が家庭の事情で辞退した。ファシリテーター3名のうち1名は4回目の実施、他2名はファシリテーターとしては初めての実施だった。里父が1名参加しており、男児目線での発言をしてくれた。養育中の子どもが皆男児だったため、里母達からは「男性がいてよかった」という声が上がっていた。

### ○プログラム時に工夫したこと

姉弟兄含め、12歳以上の子どもを養育している里親が2名いたため、高年齢児の例も意識して取り入れるようにした。参加里親に親族里親と養育里親がいたため、ロールプレイでペアをつくる際には事情を考えながら配慮した。また、毎回印をつけたフラワーパワーの用紙を配り、今どのスキルを学んでいるのかより分かるようにした。カタカナの用語については、日本語訳のカードを作成し、必要に応じてホワイトボードに貼り、思い出せるように工夫した。



### ○まとめと課題

高知県の現状としては高年齢児の子どもを養育している里親が多いため、12+の需要もあると思われるが、ファシリテーターの育成が必要。また、マンパワー的に1年に1プログラムの実施が限界なため、基本プログラムが優先になる。昨年度は本プログラムの参加者が確保できず、実施できていないため、引き続き体験会を行ったり、参加者の声を中心とする情報発信をしていく等の取り組みも必要。地域に出向いての体験会等も検討していきたい。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in福岡

福岡市こども総合相談センター 高橋 三津子、高橋 恵子  
(特) SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子、水本 有依、前田 愛海

- 【実施主体】 福岡市こども総合相談センター（児童相談所）  
（特）SOS子どもの村JAPAN（児童家庭支援センター）
- 【実施期間】 2024年9月13日～2024年11月29日（毎週金曜日）10:00～13:00
- 【実施場所】 福岡市こども総合相談センター
- 【参加里親】 6名（養育里親4名、養子縁組1名、ファミリーホーム1名）  
出席率93%
- 【参加体制】 ファシリテーター5名、補助スタッフ1名
- 【フォローアップ】 2016～2022年度受講生対象：2024年6月7日  
2024年度受講生対象：2025年2月14日

### ○実施状況

今年度で福岡市は、7回目の実施となる。今年度のプログラム実施は、前回に引き続き参加者の中には養子縁組の方もおり、それぞれの立場からの意見交換が重ねられた。今年度のこれまでの受講生を対象としたアフターセッションでは、14名が参加した。思春期に差し掛かる子どもの養育が増えてきたことを背景に、レジリエンスとリフレクティブリスニングに焦点を当てて話し合った。

### ○プログラム時に工夫したこと

対話—参加者の中には家庭での実践のフィードバックを行う際、緊張し、間違っているのではないかと不安を吐露する方もいた。それに対してファシリテーターから、肯定的な声かけを行うことを心がけ、正解を目指す必要はないことを保証した。しだいに参加者同士でポジティブにフィードバックを伝え合うようになり、対話をしながら自発的にアイデアを出し合うことができるようになった。参加者の方からは、「温かく導いてもらった」等の感想をいただいた。

休んだ時の対応—参加者に休みがあった場合は、翌週のプログラムに間に合うようにオンラインまたは電話でのフォローを行った。また、昨年度に引き続きニュースレターを活用することで全体を把握して流れを伝えることができた。

### ○まとめと課題

アンケートから「問題行動が減った」「養育者が感情的にならず冷静に対応できるようになった」「子どもが気持ちを話すようになった」等の感想があり、プログラムが功を奏したことが窺われる。

今後の課題として、後半になると盛り沢山のテーマが1つのセッションに含まれ、終了時間が延びる傾向にあることが挙げられる。グループが深まるにつれて考えも深まり、発言量も増えている可能性もあるが、要因の1つとしてセッションの構成も影響していると考えられる。ファシリテーターの工夫等を今後検討する必要があるだろう。



## 2024 フォスタリングチェンジ・プログラム in大分

乳幼児総合支援センター栄光園

本庄 公多子、齊藤 光里、松井 美穂、衛藤 真弓

児童養護施設森の木 外池 早織 / 児童養護施設光の園 奥部 陽子

児童家庭支援センター「陽」 永山 真江 / 児童養護施設清浄園 尾家 正子

【実施主体】 社会福祉法人栄光園 乳幼児総合支援センター栄光園  
(大分県委託事業)

【実施期間】 2024年10月11日～2025年1月17日(毎週金木曜日) 10:00～13:00

【実施場所】 社会福祉法人栄光園 乳幼児総合支援センター栄光園  
子育て支援ホール

【参加里親】 7名(養育里親3名、他4名)  
出席率90.4%

【参加体制】 ファシリテーター2名、スタッフ2～3名

### ○実施状況

今年度は養育里親と施設職員が参加した。ロールプレイでは、里親側は実際のこどもの様子を再現し、対応の仕方は施設職員が再現するなど、お互いに実態を知ることができたようで、学びになっていた。家庭での実践で成功した部分うまく行かなかった部分と発表しあう中で、お互いに共感をしチームとしての雰囲気が良くなっていった。

### ○プログラム時に工夫したこと

グループワークのチームを考慮し毎回変えていった。後半は話しやすいペアにするなどの工夫をした。また、途中で参加者から質問が出た時には、他の参加者から意見を出してもらったり、ファシリテーターも一緒に考えるようにし、参加者ができるだけ自分で解決策を見つけられるようにしていった。

### ○まとめと課題

- ・参加者から研修時間や曜日の関係で、参加したいが休みが取りにくいとの声があったので、今後時間帯や曜日の見直しが必要だと感じた。
- ・今年度は施設職員の参加もあり、里親と職員とお互いに対応の仕方を共有し、参考にすることで、家庭での実践に生かされていたように思う。
- ・今回施設職員も一人のこどもに焦点をあて、対応をしてもらった。感想として「こどもの見方が変わり、こどもも変化をしていった」などという感想が聞かれ、職員もこのようなプログラムが必要ではないかと感じた。

今後開催をするときは、養育里親とは別に研修日を設けていくと良いかもしれないと思う。



## ファシリテータ フォローアップミーティング

各地域でのプログラム実施を円滑なものにするため、養成講座終了後もファシリテーターが集まり、疑問点の解消や支援者同士の繋がりを共有する「ファシリテーターフォローアップミーティング」を実施しています。今年度もオンラインにて計3回開催されました。

### オンライン開催

▶第一回目 2024年7月25日 参加者10名

参加地域:山形、神奈川、東京、長野、京都、沖縄

▶第二回目 2024年11月18日 参加者18名

参加地域:岩手、千葉、神奈川、新潟、富山、静岡、京都、広島、山口、熊本

▶第三回目 2025年2月10日 参加者28名(内見学者2名)

参加地域:北海道、茨城、栃木、千葉、東京、三重、大阪、高知、山口、長崎、熊本

#### 参加者ご感想

- ★他の地域の様々な実践や工夫が聴け、似たようなところで悩まれているのをうかがい、共有できたことが励みになった。
- ★工夫している点や悩みなども共有する中で、新たなアイデアを得ることができた。また、先生方の具体的な助言から、ガイドラインの確認や、今後の取り組みについて課題が明確になった。
- ★既に実践されている方々からのお話を聞くことで、実施に向けてイメージすることができた。これから実施する上でアドバイスをもらえたことは、とても心強かった。
- ★他府県の実施状況を知ることができ、とても参考になった。本県でも取り入れられるところは取り入れて実践していきたい。不安を抱えながらの実施なので、アドバイザーから助言をいただけると、次に活かすことができると良いと思う。

#### 考察

今年度の第3回目は、12機関より28名の参加があり、昨年度の第3回目の過去最多数につづき2番目に多い参加数となった。また、ファシリテーター数も今年度で340名を達しており、年々全国的にFCP実施が広がっていることを実感する。

ベテランのファシリテーターが増えている機関からは、主に情報提供と課題が話し合われ、先生方のアドバイスをすることで、更に内容の良い実施に繋がっている様子。また、実施経験が浅い機関やこれから実施をしていく機関にとっては、他機関の状況を知り、具体的な工夫点やアドバイスは、とても勇気付けられ貴重な時間になっていると思慮する。

今後の課題としては、今回のように参加者が増えると、各発表の時間が短くなり十分な意見交換が難しいなど意見も寄せられているため、開催回数や参加数の見直しなど改善が必要と思料している。

## プログラムに関する里親の評価

プログラム終了後、16都道府県にて計21カ所（北海道、岩手、茨城、栃木、東京、神奈川、富山、山梨、長野、静岡、京都、大阪、広島、山口、高知、福岡、大分）の受講者123名に対して、調査を実施致しました。

### ◆もっとも役に立つも思った考えやスキル（1人5つまで回答可）

スキル名	回答数
・アテンディング	70名
・その他	67名
・選択的無視	49名
・効果的に褒める	46名
・ストップ・プラン・アンド・ゴー	43名

### ◆子どもの行動の変化（5段階評価 1ひどくなった ⇒ 5大変よくなった）

実施場所	所の合計	対象児（回答者121名）	平均点	4.1点／5点満点
実施場所	所の合計	きょうだい児（28名）	平均点	4.0点／5点満点

#### 関係性

- 少し気になったことでも相談することが増えた。
- 不適切な行動をとってしまった時にどうしてそうってしまったのか話せるようになった。
- 思い通りにいかななくても、気持ちを聞いてあげることによって落ち着くようになった。
- 「わかった！」「はい！」等の肯定的返事が増えた。
- 子どもの長所を上手に生かしながら、話し合って物事を決められるようになった。
- 褒めることが増え関わりあうことが多くなったことで、子どもに少し自信が付き、進んで生活習慣を行えるようになった。
- 言葉が増え、コミュニケーションがよりとれるようになった。
- 一緒に遊ぶことが増えた。
- 里子が里父に話しかける努力をするようになった。
- 子どもが何をしたいか、何を望むかを言えるようになった。

#### 感情調整

- 感情的にならず、話が聞けるようになった。
- 褒められる事への期待が大きくなり、もっと頑張りたいという気持ちが大きくなった。
- 家で不機嫌な態度をとることが少なくなった。
- 外で泣きわめくことがなくなった。
- 自分の感情の話をするようになった。
- 感情に名前をつけることによって、物に当たることが激減した。
- 勝負に負けたり失敗したときの落ち込みや怒りが減り、気持ちの切り替えがうまくなった。
- 自身の感情のコントロールが以前よりできるようになった。
- アテンディングにより、子どもの気持ちが明るく開放的になった。

行動

- 動画(YouTube)を見る時間が守れるようになった。
- 見通しをもって行動することが増えた。
- 集中力、最後までやり遂げる力が増した。
- 自分の身の回りのことを、言われなくてもやるようになった。
- 叩く、ひどいことを言うなどの問題行動が減った。
- 新しい事に挑戦しようとするようになった。
- 社会的に許されない行為というものがわかり、その行為がなくなった。
- 早起き、宿題、片付けなどできることが増えてきた。
- 手伝いをしてくれるようになりそれが続行中

学校

- 子どもが泣かずに学校に行けるようになった。
- 学校の出来事を詳しく話すようになった。
- 勉強が好きになった。
- 宿題を自主的にやるようになった。
- 学校への支度をなるべく一人でやるようになった。

その他

- 他人の良いところを見つけ喜べるようになった。
- 偏食せず何でも食べるようになった。
- 色々な方法を考えるようになった。
- 自分の将来を考えるようになった。
- 人のことを悪く言うことが少なくなった。
- 自傷行為が無くなった。
- 出来ると信じて任せたことが、どんどんできるし、成長している。
- 自己責任を自覚してきた。
- 否定的な言葉が多かったが改善されてきた。

◆里親と里子の関係（5段階評価 1ひどくなった ⇒ 5大変よくなった）

実施場所24か所の合計（回答者 115名） 平均点 4.3点／5点満点

- 「お母さんは私の気持ちを分かってくれるから好き」というようになった。
- 肯定的な行動に注目して声掛けるように気を付けたら、子どもの肯定的行動が増えた。
- 私に対して信じてくれることが増えた気がする。また、子どもと私の笑顔も増え、会話も増えた。
- 子どもの行動に何か意味があると思い、観察して関わろうという気持ちになった。
- 一緒に遊んだり料理をしたりと、何かと一緒に取り組むことが増え、子どもからも誘われるようになった。
- 日常的に褒めることで、信頼感が強くなったように感じる。思うままに甘えてきて、こちらが受け取ると嬉しそうにしている、それが自分にもフィードバックされて自分も嬉しくなる。
- 私が以前より自分の感情をコントロールすることができるようになってきた、穏やかに過ごせており、以前に増して可愛いと思える。
- 信頼関係を少しずつ深められている実感がある。子どもの問題行動に付き合うことが苦ではなくなった。
- 受講する前に比べて、子どもとのやり取りがスムーズになった。特に向き合って話をする場面では、こちらの話を素直に聞くことができるようになった。
- 里親の話を聞く姿、やりとりが少し丁寧になった。
- 一方的に怒ったりルールに従わせようとしていたことが、傾聴するようになってお互いの関係が穏やかになった。
- 大きな変化はまだないが、スキルを学んだことで私自身の気持ちにゆとりを持つことができた、またスキルをうまく使えた時には、子どもが目に見えて効果を感じるできるようになった。

◆里親として感じ方への影響

内省

- ・子どもの良い面も悪い面もまずは受け止めて、あなたのことをいつでも見ているよと伝えることが大切だという思いになった。
- ・とても具体的な手法などを学ぶことができ、いい影響があり、それを感じた私も子どもも、いい影響を与えられたと思う。
- ・力が入り過ぎた部分もあり、ダメなことはダメと教えなければと強く思っていました。少し力を抜いて日々の生活を楽しみたいと思うようになりました。
- ・子どもをよく観察すること。考え方やスキルをいくつも知ることができ、今後の子育ての支えになると思う。
- ・客観的に里子と接することができ、感情的になって子育てしていた自分自身の問題に気づくことができたと思う。
- ・自分の心持ちや接し方次第で、子どもはこんなに変わるんだと驚いた。状況を俯瞰で見れるようになった。イライラが減った。
- ・育てづらい子を養育するのは苦痛だったところもあるが、変化することを肯定的に感じ楽になってきた。愛らしいと思えるようになってきた。
- ・褒められる経験がほとんどなく育ったので、褒めるタイミングや方法、褒められる喜びと喜ぶ子の顔を見れる嬉しさを経験出来て良かった。
- ・肯定的注目や褒めること、タイムアウトや無視。知識にはあったが上手くできていなかった。コースを受けたことで結果が実感できた。
- ・自分が育てるについては考えていても「里親」として考えていなかったような気がする。

変化

- ・問題が明確化し解決方法を学ぶことで、里子との関りがスムーズになった。
- ・問題行動があったときのストレスが減り、落ち着いて見守れることが増えた。
- ・子どものことはもちろん、自分自身を丁寧に振り返ることができた。その時に、スキル以上に温もりのある観察、肯定的な注目に自信をもって意識できるようになった。
- ・FCPの宿題を通して、こんなに子どもが変わるとは思わなかった。今まで問題と思われる行動がこちらの対応ひとつで変化する姿を目の当たりにし、自分の思考が変えられた。
- ・より良い関係になるために、工夫して言葉を選ぶことが大切だと気をつけるようになった。

自信

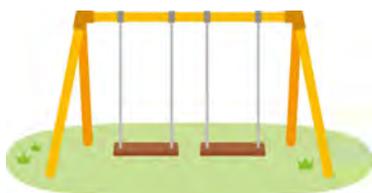
- ・悩み事も解決していく方法があることが何より自信となった。
- ・子どもとの関係性は里親であっても硬く結んでいけると自信が持てました。
- ・途中自分自身と向き合って落ち込むこともあったが、やりきった今、自分に自信がついたと思っている。子どもにも愛情が増し、私も愛情表現をたくさんするようになり、より一層愛おしくかけがえのない存在となっている。
- ・普通の事でも、褒められるようになって子どもも嬉しそう。色々な方法があるので何とかかなりそうと思う。
- ・自分の生き方を振り返るとともに、子どもとの上手な向きあい方、子どもを安心させてあげる存在となれていることへの考え、自信に繋がった。

仲間

- ・他の里親さんと関わらせていただく事で、親としての考え方に影響を受けた。
- ・里子の子育てや知識について他の参加者の話を聞き、習得できたことに加え、自らの子育てを学び直すことができた。
- ・色々な里親さんと出会えて楽しく学べた。
- ・同じく里親をされている方々の考えや活動の様子を伺えて、里親としての役割について、改めて学ぶことができたと思う。

◆家庭訪問を受けたことでどう役になったか（複数回答可）

回答者(97名)	回答数
・a全く役に立たなかった	2名
・b.コースに参加することに自信が持てた	48名
・c.里親として支援されていると感じた	71名
・d.ファシリテーターは、里親として、私が必要としていることに関心があるとわかった	47名
・e.その他(自由記述)  ・参加の目的や自らの課題を予め考えることができた。 ・困っている事を解決できるかもと背中を押してもらえた。 ・子どもの普段の様子も見てもらえたとし、事前の準備がしっかりしたすごい講義なのだなと思った。里親一人一人にちゃんと時間を割いてくれてありがたい。 ・上手く言葉にできないことも汲み取って表現していただいた。 ・他の里親さんとの交流が出来、色々な意見が聞けて勉強になった。 ・事前にコースについて説明して下さったので、安心して参加することができた。 ・自分の課題や状況を知ってもらえた。 ・今の状況を理解してもらってからの受講だったので、困っていることを話しやすく、的確なアドバイスをいただけた。 ・ファシリテーターの方とお会いして、その方の雰囲気を見て安心して受けることができました。 ・子どものことを少しわかってもらえたので参加することに前向きになれた。 ・どんなことを学びたいか自身のなかで整理して受講に臨むことができた。	16名



## 2024年度の実施と今後の課題

｜ SOS子どもの村JAPAN 松崎 佳子 ｜

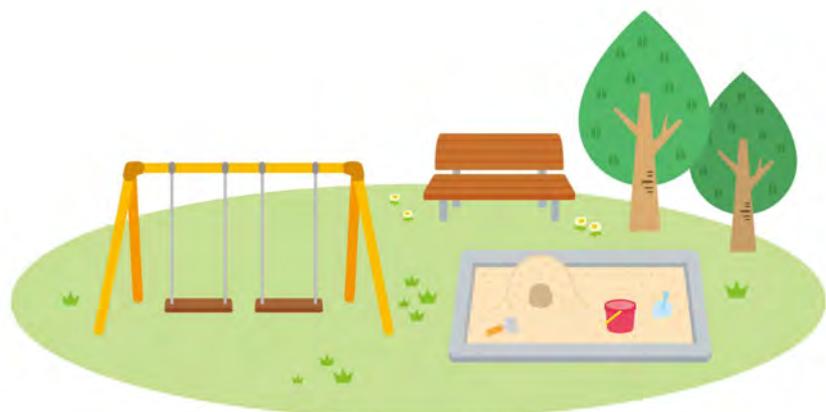
フォスタリングチェンジ・プログラム(以下FCP)は、ネグレクトや虐待が与える影響を考慮しつつ、効果的なコミュニケーション、問題解決のスキルを重視し、里親が日々の生活の中で、子どもの行動のニーズを把握し対応できるようになること、子どもとの良好な関係性の構築を目的としている研修です。2016年度福岡と熊本でスタートし、全国地域へ広がってきています。2020年からの新型コロナの流行により、実施を見送らざるを得ない地域もありましたが、時期の検討や消毒、安全な場所の設定などのコロナ対策を工夫することにより実施の努力を続けてきました。23年度、新型コロナは「5類」の分類となりました。諸対策は継続しつつ、今年度は全国17地域で21回実施され、そのうち2地域では、複数回の実施となっています。

ファシリテーター養成についても、2020年からは、オンラインによる講座(4日間)でしたが23年度、4日間対面研修と2日対面、2日オンラインのハイブリッドを行い、改めて対面の良さを実感することができました。しかし、受講しやすいオンラインに比べ4日間の出張による日程や交通費をどのように確保できるかも改めて課題となり、24年度は、2日間オンライン、1週間後2日間対面というハイブリッド形式で実施しました。参加のしやすさと、FCPとしてのコミュニケーションの重要性、雰囲気体験はできたのではないかと思います。また、対面研修を後半2日間にしたことで、ロールプレイなど実践を含むプログラムもかなり体験できるようになったのではないかと思います。

各地域での里親さんへのFCPについても、遠距離地域への実施課題があります。オンライン使用や対面との組み合わせ等による実現性についてさらに検討を進めていく予定です。

今年度は、日本子ども虐待防止学会第30回大会において「フォスタリングチェンジ・プログラムの効果に関する予備的研究」として佐藤篤司先生(国際医療福祉大学)によるポスター発表が行なわれました。2018～2022年度にFCPに参加した里親153名を対象にプログラム実施前と実施後に同じ調査を行い比較検討したものです。里親自身については、すべての調査項目で値が上昇しており、参加前よりも参加後の方が、里親のペアレンティングスタイル、自己効力感、アタッチメントの質、コーピング方略が、改善されていることが示されました。また、子どもの特徴について測定したSDQ(子どもの強さと困難さ)アンケートにおいても、「情緒の問題」「行動の問題」「多動/不注意」「TDS」で改善が見られ、「向社会的な行動」において向上が認められました。FCPは2012年に発祥地である英国においては無作為調査による効果が検証されているプログラムですが、日本においても受講者の実施前と実施後のみの調査結果ではありますが、有効性が実証できたのではないかと思います。

今年度は、児童福祉法の改正施行として、リクルート、研修、支援を総合的に実施する里親支援センターの設置が始まりました。また、各自治体による今後5年間の家庭養育推進、パーマネンシーを目指す「社会的養育推進計画」も設定されました。里親委託の推進は、里親支援と両輪で行う必要があります。里親養育は、中途養育であり、愛着、関係性の構築の難しさを抱えた養育です。FCPIは、それらに対して里親自身が自ら工夫し取り組むことを支援する研修です。里親委託後研修であるFCPの必要性、重要性がさらに増してくるのではないかと思います。各地でさらに実施されることを願っています。



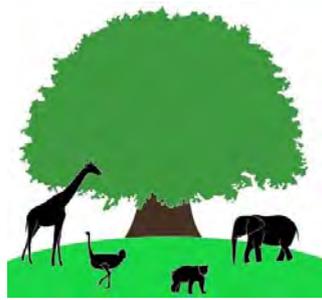
作成 2025年6月  
一般社団法人 無憂樹

〒160-0023  
東京都新宿区西新宿7-4-7 イマス浜田ビル 5階

TEL : 03-6869-0192  
FAX : 03-6869-0228

MAIL : fcp@muyuju.org

<https://muyuju.com>



一般社団法人 無憂樹